



人口減少・児童数減少のトレンドが固まった現在 稀に見る理由で進められている小学校の増床現場



ちょっと見には何の変哲もない小学校の校舎建設現場だが、全国的にも希少な現場なのだ

今回の「現場風景」は、取材で訪れた京都・奈良の道行の途上で見つけた現場。

京都府と奈良県の県境に位置する京都府木津川市立城山台小学校の「増床工事現場」だ。

人口減少は今や全国共通の社会問題だ。今のままの勢いだと、10年後、20年後には高齢化率の極端な上昇だけでなく、限界集落が急増するとの観測もある。

それは京都市を擁する京都府も同様で、中でも1千年の歴史を誇る世界中の旅行者の憧れ・京都市の人口減少ぶりは全国の都市のなかでも目立つという。

一方で今回の現場風景の舞台・木津川市は、大阪府・京都府・奈良県にまたがって建設が進む「関西化学術研究都市」の中心部が置かれていることもあり、2007（平成19）年の市制施行以来、ずっと人口を増やし続けている。

UR都市機構や民間デベロッパーによるニュータウンづくりが進んだ結果であるが、特に目立つ

のは子育て世代の移入だという。

今回の「現場」城山台小学校はまさに、そのニュータウンによる人口増の結果、いまどき珍しい「増床工事」が行われているのだ。

ニュータウン建設で児童数が増えた結果ですが、城山台小学校が開校したのは、2014（平成26）年4月。これがなんと京都府全域でも7年ぶりの新設校ということだけでも、城山台小学校の置かれた特殊な環境が推測できます。スタート時に991人だった児童数（この時点でかなりのマンモス校だ!!）はその後も増え続け、2025年には1800人（55学級）に膨れ上がると予測されている。

そのため新校舎、第2体育館、放課後児童クラブなどが建設されつつある。

一見ただけでは、小学校の改築工事だろうかという印象だが、その背景にはそうした事情が隠れていたのだ。都内でもお目にかかりにくい「現場」といえる。（砂耳）